

綱領

1. 吾々の社会は、正義に立脚した良識ある労働生活の安定と向上を期す。
2. 吾々は、常に暴力と独裁を排斥し、自由と民主の発展を期す。
3. 吾々は、赤十字の民主化と近代化を促進するに努め、人道的任務の達成に寄与する。

日赤新

昭和59年
1月1日
発行
第102号

発行所
日本赤十字新労働組合連合会
(日赤新労)
東京都港区虎の門3-24-7
(庚申ビル)
TEL 03-432-1089
発行責任者
掛井 巖



明けましておめでとう どきどきの年

日赤新労執行部一同

第3回中央委員会を開催

昭和58年12月18日～19日

賃闘経過など諸報告を承認

昭和59年度運動方針案を討議

周囲の山々が雪におおわれ、時折、雪が舞い落ちてくる随走の十八日、十九日の両日にわたり、福島市飯坂町「みちのく荘」において第三回中央委員会が全国各新労働下の各単組より、中央委員、オブザーバー、並びに本部役員が出席し盛大に開催された。定期大会を二カ月後に控え、婦人部長会議、各ブロック会議で十分審議が成された五十九年度運動方針案をはじめとした重要議題を中心に各ブロックでの審議の結果を反映させ、熱のこもった討議が行なわれた。内容については次のとおりである。

議事次第に従い、資格審査・手当の交渉状況の報告が行なわれ、議長に梅村正一氏(名二日赤)、副議長に川島環氏(鳥取)、書記長に川島環氏(鳥取)、書記に美藤春夫氏(福岡支部)を選出し、議事に入った。川出中央執行委員長挨拶の後、各部報告が組織・教宣・調査・婦人の順で行なわれ、満場一致で承認された。

また調査部より先に開かれた賃金委員会の内容報告がされ、さらに各単組における年末手当の要結状況及び年末年始の特別

週間の山々が雪におおわれ、時折、雪が舞い落ちてくる随走の十八日、十九日の両日にわたり、福島市飯坂町「みちのく荘」において第三回中央委員会が全国各新労働下の各単組より、中央委員、オブザーバー、並びに本部役員が出席し盛大に開催された。定期大会を二カ月後に控え、婦人部長会議、各ブロック会議で十分審議が成された五十九年度運動方針案をはじめとした重要議題を中心に各ブロックでの審議の結果を反映させ、熱のこもった討議が行なわれた。内容については次のとおりである。

★議題★

一、五十九年度運動方針案について
本部よりの提案説明が各項について行なわれた後、一部修正の後承認された。

1 国外状況
本部原案どおりとするが、定期大会までに情勢の変化により書き加える必要もあるかも知れないが、本部に一任する。

II 国内情勢
八頁上から四行目以下十行までを次のように修正する。

日、田中元首相のロッキード事件丸紅ルートで五億円取崩に問われた有罪判決が下された。
この判決で野党各党より提出の田中議員辞職勧告決議案に対する取り扱いについて国会が空転状態となったが、与野党首脳会談開催や、自民党非主流を軸とした与野党攻防から、国会は五十一年十一月衆議院本会議を開き、行政改革関連六法案、防衛

二法改正案、減税、人勸、中裁り、大変遺憾なことである。必

「保存血液の確保からスタートした献血事業も医療技術等の急速な進歩に伴い、成分製剤へと進み今や分画製剤が血液需要の主流を占めているようになってきている。昨年四月、北海道千歳に日赤独自の分画製剤製造工場を完成させ、①本年八月から製造を開始しているが、分画製剤の需要の②九〇%以上が諸外国から輸入している現状である。必

「国際救護活動等は特に支部のみではなく、各施設の協力なくしては実施出来るものではないので、それぞれの協力体制を充実強化することによって地域住民に対する理解を深め、赤十字事業達成のための根幹となる社資募集目標達成に努めなければならぬ。」

②十五頁下から九行目からを次のように一部修正する。
「ICU、CCU等集中治療

専門病棟を設置し、あるいは高額の機器の効率的な稼働をはかるための施設の整備、改善並びに効率よい看護スタッフの配置と研修養成を行ない、今後の医療行政と増収対策をたてねばならない」

今までは、日赤の現状の中に「乳児院」の項がなかったが、昭和六十一年版には、新たに項を作ることが提案され、可決された。

84年度賃金交渉の基本方針
二十一頁上二行目に追加文として次を加える。
「しかし政府税制調査会は減税財源確保のため、増税を予定している」

二十六頁の空欄の箇所に、第二回目標案を挿入する。
その後、五十八年十一月十一日、再度中労委に調停申請し、五十八年十二月二日次のような調停案が出され、これを受諾し、昭和五十八年度の給与改定が決定された。

調停案
一、昭和五十八年度の給与改定については、日本赤十字社が十月十七日に回答した内容より、昭和五十八年四月一日より実施すること。
二、前項にかかわらず昭和五十八年の期末手当及び勤続手当については、改定前の俸給、扶養手当、調整手当及び役付手当の合計額を算定する基礎とする。

三、上記に係わる差額の支払については可及的速やかに支払うよう努力すること。
三十頁(四週五休)の最後に次の文を加える。
「又、第五ブロックの一部、乳児院の一部で試行実施している」

以上昭和五十九年度運動方針案について字句の訂正を含め、一部修正、追加し、スローガンを含め原案どおり可決された。

二、本部事務局専従員について
運動方針(案)にも含まれていくこと、書記局体制の充実整備をはかる目的で、昭和五十九年四月一日より専従事務職員の新規採用(案)の提出され、全員養成で可決された(別掲「二面」プロフィール参照)。

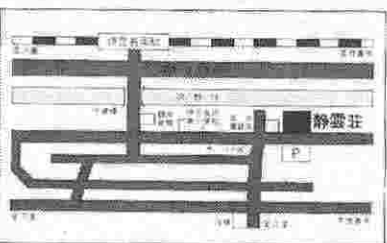
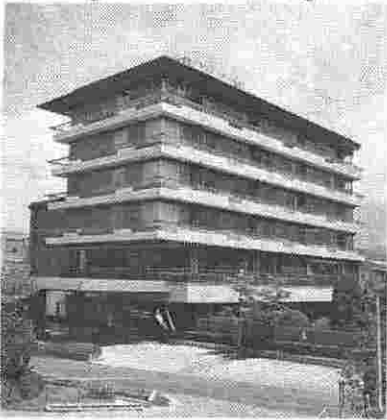
三、昭和五十九年度予算案について
本部提案に若干の質問(人件費の項)の後、賛成多数で可決。

四、昭和五十九年度本部役員選出について
婦人部中央執行委員の選出については、各単組が本部と連絡をとりながら推薦するが、他の本部役員とともに大会役員候補委員に一任する。

五、第二十三回大会運営について
期日：昭和五十九年二月二十日～二十一日。
場所：伊豆長岡「清雲荘」

議長・第五ブロック
副議長・第六ブロック
書記・第一ブロック

静雲荘



交通のごあんない
①国鉄三島駅で伊豆箱根鉄道に乗換え「伊豆長岡駅」(この間20分)下車
バス………10分(小学校前下車)徒歩1分
タクシー………5分
②沼津1, 2, 3より伊豆長岡温泉(40分)

〒410-22 静岡県伊豆長岡町天野49
TEL 05594-8-5000(代)

全国婦人部長会議開く

58年度運動方針案などを討議



全国婦人部長会議であいさつする川出執行委員長

周囲の連降を新雪でおおわれ、た山々を背に、門前町で知られる善光寺に程近い千曲河畔に開けた、長野県戸倉上山田温泉「戸倉荘」において、昭和五十八年度婦人部長会議が、十一月二十三日、二十四日の二日間、わたり全国各単組より、婦人部長、オプザーバー及び本部役員等多数の出席のもとに、盛大に開催された。

第一日目、議長に勝川つね子（飯山日赤）、書記に牧直子（飯山日赤）の両氏を選出し、

第一日目提案された運動方針（案）について、審議を行い、種々活発な意見交換後、次のとおり決議された。

◇ 議題 ◇

一、昭和五十八年度運動方針（案）について

婦人部対策は原案通り、活動項目については、次のとおり決定した。

① 婦人部活動家の育成とリーダー養成のための婦人部学習会を

② 昭和五十九年度役員選出

③ 復数夜勤、月8日割の完全変化。

④ 産前産後休みの完全有給化

⑤ 有給休暇の完全消化、並びに生体休暇の行使。

⑥ 友誼組織との交流会開催

⑦ 各種会合に参加意欲の高揚を図るためのレクリエーション活動を開催。

⑧ 年二回婦人部会議開催

⑨ 第一回は婦人部代表者会議、第二回は婦人部長会議とする。

二、昭和五十九年度役員選出

自己紹介、中央執行委員長挨拶、中央書記長より一般経緯報告が行われた。

特に昭和五十八年度ベアについては、現在までの経過の詳細な説明と、四週五休の現状報告があった。四週五休に関しては、各単組においても強力に交渉し進めるよう努力することを確認した。

また、前回の婦人部代表者会議において決定した、重症患者現況調査の結果報告後議事に入り、昭和五十九年度婦人部運動方針（案）の提案説明が行われ、全会一致で、

① 産前産後休みの完全有給化

② 有給休暇の完全消化、並びに生体休暇の行使。

③ 友誼組織との交流会開催

④ 各種会合に参加意欲の高揚を図るためのレクリエーション活動を開催。

⑤ 年二回婦人部会議開催

⑥ 第一回は婦人部代表者会議、第二回は婦人部長会議とする。

三、その他

男女平等の問題から各単組の現状調査（病院看護職を除いた部門別、役職別、男女別、経験年数）の要望があり、第三回中央委員会に提案することとした。

⑦ 看護婦の増員と定着づくり

⑧ 看護婦の増員と定着づくり

⑨ 看護婦の増員と定着づくり

⑩ 看護婦の増員と定着づくり



今回は、昭和六十年目標の日赤給付体系改善に向け、昇格基準について現行（昭・五十・十・二・四）及び（昭・五十五・十・二・五）の二つを併用し、参考として人事院勧告調査資料、労働省広報等を見比べ、次の要領に添って検討を進めた。

要領、一

昭和五十七年度俸給表を適用し、年齢階級差、学歴階級差及び職能階級差を設定。

要領、二

五歳、四十歳、四十五歳とそれぞれ格差数値を求めた結果、結果として、高卒二十歳の俸給額を「二〇〇」とし、二十歳の短大卒、大卒について「二一〇」及び「二一五」とし、有資格者卒、短大卒、大卒をそれぞれ「二一〇」とし、有資格者の高卒、短大卒、大卒をそれぞれ「二二〇」とし、以上の要領「二二〇」及び「二二五」俸給とする。

第八回賃金委員会開く

給与体系の昇格基準の現行見直し

給与体系の昇格基準の現行見直し

一、一般職（一）の大卒、短大卒、高卒をそれぞれ「二〇四」「二〇五」として格差を設定した。

二、一般職（二）の大卒、短大卒、高卒をそれぞれ「二〇四」「二〇五」として格差を設定した。

三、医療職（一）の大卒、短大卒、高卒をそれぞれ「二〇四」「二〇五」として格差を設定した。

四、医療職（二）の大卒、短大卒、高卒をそれぞれ「二〇四」「二〇五」として格差を設定した。

五、その他、職務に於ける内容を検討し、疑義の個所において現行D等級十四号俸を、D等級十三号俸にする。同C等級十四号俸を、十五号俸にする。

北から南から

文化祭を盛況に開催

名一病院従組書記長

例の文化祭を、十一月十五日、十六日、十七日の三日間、開催しました。現在クラブ活動は十二の部が存任しております。

（恒） 月十五日、十六日、十七日の三日間、開催しました。現在クラブ活動は十二の部が存任しております。

（当） これら十二のクラブが年間の作品、成績を披露する場として催しております。一方、会場では、第一目にお茶会を茶華道部が担当をします。第二目はコーヒークラブの出張店を契約し、無制限サービス。第三目は粟せんざい店を、料理クラブと文化厚生部の合同で担当をします。今年、抹茶が七百六十杯、コーヒークラブは二百杯、粟せんざいが七百八十杯の利用者がありました。

（三） 三日間は、全職員が本場にリラックした気分の中で文化祭を堪能



盛大におこなわれた名一病院の文化祭風景

技能職については、現行要件はC等級十三号俸の要件を除くこととし、新たに要件付B等級への昇格としてC等級十一号俸を加えることとする。

三、医療職（一）短大卒にB等級へ昇格の道を開き号俸をC等級十七号俸とする。同大卒要件付C等級十七号俸をC等級十五号俸とする。

四、医療職（二）高卒准准について、新たに在職二年D等級十二号俸でC等級への昇格の道を開くこと。

五、その他、職務に於ける内容を検討し疑義の個所において現行D等級十四号俸を、D等級十三号俸にする。同C等級十四号俸を、十五号俸にする。

1月のこよみ

○：一九八四年のスタート。臘月（むかし）。一日元日、二日初荷、書初め、六日小寒、出初式、七日七草、健康の日、十、十一は十日えびす、十一日が鏡開き、蔵開き、十五日が成人の日（祝）で十六日が振り替えて休日、やぶへり。十八日土用、二十一日大雪で、いよいよ冬本番

○：中三、高三の受験生は、の寒さがやってきます。大相撲初場所は八日、二十二日。

○：長期予報では、一月は時々季節風が強まり、月初めと下旬に、西日本を中心に寒い日が多くなりそう。中旬には一時寒さがゆるむが、下旬、中旬を中日は十日えびす、十一日が鏡開き、蔵開き、十五日が成人の日（祝）で十六日が振り替えて休日、やぶへり。十八日土用、二十一日大雪で、いよいよ冬本番

○：中三、高三の受験生は、の寒さがやってきます。大相撲初場所は八日、二十二日。

関正氏のプロフィール

私から見た関さん（写真）は、九年前組合結成十周年記念にあたり、色々と相談をした時、思ったことは、自分の意志を通す、頑固な性格の反面、とても気さくな人で、説得力があり、同僚や後輩の良き力があり、信頼されている方です。

永年勤めた地方公務員の職を昨年退職し、悠々自適の生活を送っていました。

酒は強く飲むほどに、よく昔のなつかしい歌が出てきます。東北人特有ののほほり強さをもち、濃厚で人情の厚い人です。一度会った人なら、すぐ親めると思えます。全国杯つとめさせていたが、組合の方、本部の役員です。よろしくお願ひいたします。（関正）

相談相手となつて、信頼される関です。昨年定年退職をし、一年間仕事を離れ、マヌコミを通じてはあったが社会情勢を見てきました。

今度お世話になるにあたり、川出中央執行委員長から色々とお話を伺い、日赤新労の活動に心から共鳴いたしました。これからは皆様の御指導をいたいただきながら、一杯つとめさせていただきます。（関正）

願ひ致します。（大向広治）

ごあいさつ

今度、事務局にお世話になる関です。昨年定年退職をし、一年間仕事を離れ、マヌコミを通じてはあったが社会情勢を見てきました。

今度お世話になるにあたり、川出中央執行委員長から色々とお話を伺い、日赤新労の活動に心から共鳴いたしました。これからは皆様の御指導をいたいただきながら、一杯つとめさせていただきます。（関正）

知って楽しい言葉のルーツ

「さばを読む」という言葉があります。年齢や数量を自らの都合のいいように、「イサバヨミ（略してサバ読み）」といったことをいいます。

これは魚市場で、鯛や鰯の小魚を数えるとき、目にもとまらぬスピードで「ひとや、ひとや、ふたや、ふたや、みちや、みちや、みちや、みちや」と箱に投げこんだことからきています。

というのは、この箱の魚をあてで数え直してみても、必ず違っていたのです。そこから「さば読み」「さばを読む」ということばができたのです。

また、魚市場のことを「イサバ」と呼ぶことから、間違の多い魚市場での数え方を「イサバヨミ（略してサバ読み）」といったことばもあります。

（日本語がわかる本）